お札と切手の博物館ニュース

Banknote and Postage Stamp Museum News

Contents

展覧会予告	特別展「お札の世界で宝さがし　7つの島の大冒険」
展覧会追録	明治150年関連施策特別展「日本近代紙幣の礎となった男たちー明治150年 印刷局はじまりの物語ー」より「印刷局製の商品ラベル」
レポート	明治150年関連施策展示（第2回）「江戸から明治へ 明治の技術革新」
シリーズ	世界のお札と切手をたずねて②

2018/7/1
Vol. 42

展示会予告

平成30年度第1回特別展

お札の世界で宝さがし

7つの島の大冒険

7月18日(水)～9月2日(日)

世界で初めてお札が誕生してから約1000年。お札という小さな紙片には、金額だけでなく、肖像、風景、建築物、動植物などさまざまな図柄や模様が描かれ、国ごとに多種多様なデザインがあります。それは、自分の国の歴史や文化、政治、自然環境などを映し出す、象徴的な存在でもあります。

お札と切手の博物館では、夏休みの自由研究にふさわしいテーマの特別展を開催しております。今回の特別展では、お札に描かれる要素を「7つの島」に見立て、それぞれの島を巡りながら世界にはどんなお札があるのか、その背景には何があるのかを探っていきます。ここでは、出品資料の中から、お札の素材とデザインについてお伝えします。

さまざまなお札の素材

お札の多くは紙でできていますが、その原料は一般の用紙とは異なります。多くの人の手に触れ、折り曲げられることもあるお札は、丈夫な素材でなくてはなりません。日本では和紙の伝統的な材料を用いて、印刷局が独自に開発した用紙をお札に使っています。一方、欧米では麻や木綿を用いるなど、同じ紙でも国によってお札の素材はさまざまです。

プラスチック(ポリマー)製のお札

世界の多くの国では紙のお札が使われていますが、フィルム状のプラスチック(ポリマー)を使ったお札を採用している国もあります。オーストラリアは、1988年に世界で初めてプラスチック(ポリマー)製のお札を導入しました〔図1〕。以降、各国で採用され、2016年には世界の主要通過であるイギリスも導入し、話題を集めました〔図2〕。

このお札は、汚れや湿気に強く破れにくいため、東南アジア、アフリカ、中南米など、気温や湿度の高い国で特に多く採用されています。紙のお札よりも清潔で耐久性もありますが、静電気が発生しやすく機械処理に対応しにくいといったデメリットもあります。日本では、ATMや自動販売機等の使用台数が海外よりも多く、機械処理上の問題もあることから、採用されていません。

世界初のプラスチック(ポリマー)製のお札
〔図1〕 オーストラリア 10ドル 1988年

〔図2〕 イギリス 5ポンド 2016年

ユニークなデザイン

オーストラリア〔図3〕やニュージーランド〔図4〕などのお札は、カラフルな色彩やユニークなモチーフ、3Dやアニメーションのような動的効果をもつホログラムなどが使われ、そのデザインは、一見すると、お札とは思えないようなものもあります。

また、2016年に改刷を行ったスイスフランは、独自のセキュリティ機能を持ち、世界で最も安全なお札といわれますが、その技術だけでなく、革新的なデザインも印象に残ります。

メインとなるのは、肖像でも建築物でもなく、人の手。額面ごとにテーマがあり、20フラン〔図5〕は「光」を掴(つか)もうとする指先が全面に大きく描かれています。従来のイメージを覆(くつがえ)し、日々使うお札が何らかのメッセージを持つようなデザインは、新たな創造性を感じさせます。

ここでは、ほんの一部をご紹介させていただきましたが、世界にはさまざまなお札があふれています。

本展をとおして、各国の文化や多種多様なデザインをお楽しみいただければ幸いです。

（学芸員　佐藤さおり）

〔図3〕 オーストラリア 5ドル 2016年

〔図4〕 ニュージーランド 5ドル 2015年

〔図5〕 スイス 20フラン 2017年

お札の世界で宝さがし　7つの島の大冒険

-----7つのテーマ-----

1	はじまりの島	世界のお札
2	肖像の島	さまざまな人物のお札
3	無人の島	肖像のないお札
4	ジパングの島	日本のお札に描かれた生き物たち
5	どうぶつの島	生き物のお札、大集合!
6	冒険の島	さまざまなデザイン
7	ふしぎの島	偽造防止技術 体験コーナー

特別展では楽しみながら展示を見られる工夫もあります。

7つの島には1枚ずつ、宝物のお札が隠(かく)されているよ。
ガイドブックをヒントにさがしてね。
ちなみにボクたちはどこの国のお札かな?
会場でさがしてね！

ごほうびも
あるらしいよ

印刷局製の商品ラベル

平成30年は明治維新から起算して150年目の年です。このことに因（ちな）み、全国的に「明治150年関連施策」のイベントが行われていますが、当館では、平成29年12月19日（火）から平成30年3月4日（日）まで『日本近代紙幣の礎となった男たち–明治150年 印刷局はじまりの物語–』と題した特別展を開催しました。

本展では、明治初期から中期にかけて国立印刷局（以下、印刷局）の経営と技術の各方面において礎を築いた人物の業績を取り上げながら創業期の事業を紹介しました。この時期に印刷局は工場を恒常的に稼働し経営を安定させるために本業の技術をいかしてさまざまな製品を製造・販売しており、このことから当該期は、147年にわたる印刷局の歴史のなかでも他の時代に比べ、非常に特徴的であると言えます。

ここでは、当時の印刷局が製造・販売したさまざまな製品のひとつである商品ラベルを取り上げます。

印刷局製品商標

ラベルは、商品名や商号などを表示し商品に貼（は）り付ける印刷物です。それは、商品経済が発展していくと表示としてだけではなく広告の役割も見出されるようになりました。

明治期にはオランダ語で文字を示す「レッテル（letter）」と呼ばれており、これは、ある物事や人物に対し特定の評価をつけることを指す「レッテルを貼（は）る」という言葉の由来にもなっています。「ラベル」という名称は昭和期に入ってから用いられるようになりました。

現在、ラベルはさまざまな印刷技術によって製造されていますが、明治期にはその多くが石版印刷によるものでした。

石版印刷は、明治初期以降、急速に普及した印刷技術です。製版が簡便なうえ高い耐刷性を有し、大量印刷に適していたため、大量生産する商品のラベルを印刷するにはうってつけの技術だったのです。

印刷局での石版印刷の様子

印刷局では明治7（1874）年に石版印刷を開始しています。石版印刷の導入は、石版印刷が美術品の複製版画にも用いられるほど階調表現に優れていたため、それを悪用しての偽造を想定し、その対抗手段の研究を行うことを目的としていました。

当初、印刷部門に属していた石版印刷は明治９年に原版彫刻・製版部門の所属となり、職員は外国人技術者ポラールドの指導のもと技術を磨きました。明治10年には多色石版刷を完成させ、印刷局は、日本における石版印刷を先導する立場になるまでとなりました。そして、その業務は対偽造技術研究から実製品の製造へと変化していきます。

その種類は多種多様で、当時の事業報告書の製造高表からは、美術品の図譜や名刺、各種符標・化装紙を製造していたことが分かります。この符標や化装紙がラベルに当たるものです。

ここでご紹介するのは、北海道開拓使の製品ラベルです。その製品には、開拓使が官営事業として運営した食品加工工場で製造されたビールやワインといった酒類や鮭、鱒（ます）や鹿肉などを加工して缶詰とした保存食品がありました。

ラベルには開拓使の製品であることを示す開拓使の旗章である五陵星が描かれており、ブランドマークとなっています。また、それぞれの原材料が描かれるほか、食べ方などの注意書きも付されています。なかでも目を引くのは西洋風のデザインのワインラベルです。原材料の葡萄を囲むように西洋式の唐草模様が描かれています。これが同時期に発行された日本銀行兌換銀券旧１円の裏面に描かれた唐草模様によく似ており、有価証券とのデザインの共通性を感じさせます。

石版印刷による各種製品は、前述のように本来は対偽造技術研究を目的として導入された石版印刷を、工場経営の維持のため局長得能良介の主導により副業製品に活用したものでしたが、日本の工業振興の目的も兼ねていました。しかしながら、官営による事業が民業を圧迫しているとの理由で、官営工場の払下げが進められていくとともに、官製製品ラベルの受注は徐々になくなっていきます。印刷局もそれに倣（なら）うように石版印刷事業を含めた副業を縮小していき、明治１９年には本業のみを行うこととなったのです。

（学芸員　松村記代子）

鱒缶詰ラベル　明治10年代
北海道立文書館所蔵

ワインラベル　明治18年
北海道立文書館所蔵
ワインは、札幌葡萄醸造所で明治10年から製造が開始された。

日本銀行兌換銀券旧1円　明治18年
裏面と唐草模様の拡大

お札と切手の博物館では、明治150年関連施策展示を数度にわたって行っています。平成30年第2回目の本展は、昨年冬に開催した特別展から、お札の近代化において重要な要件である原版彫刻技術について、前近代から明治期に導入された近代技術への変遷をご紹介しています。

ここでは、それぞれの時代に特徴的に見られるお札の版の形式をまとめました。

【お札の版式とその特徴】

印刷するには版が必要です。現在のお札の場合は、最初に一枚ものの版（原版）を作製し、それを元に製作した複製版を20枚分つなげた印刷用の版（実用版）で印刷します。版式というのは版の形状による分類で、印刷技術の分類としても捉えることができます。

今回、展示で取り上げる江戸から明治時代に発行されたお札の版式は凸版と凹版の2種類で、それらを用いた印刷技術は凸版印刷と凹版印刷といいます。それらの違いと特徴は以下のとおりです。

前近代の技術　凸版
（江戸時代のお札に用いられた技術）

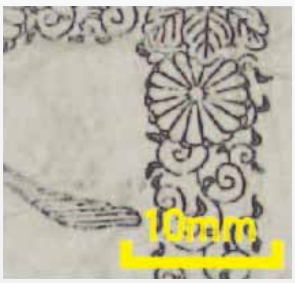
版を彫りこんでいない突き出た部分にインキをつけて紙に転写する印刷方法で、その版は、桜やツゲなど堅い材質の木に直接図柄を彫り込んだ木版が主流です。

凸版印刷物は版が紙に押しつけられたときにインキが線から少しにじみ出る「マージナルゾーン」が見られるのが特徴です。なかには版の木目が写って見えるものもあります。

島原藩札に見られる
凸版のマージナルゾーン部分

前近代の技術　腐食凹版
（幕末から明治時代の最初期のお札に用いられた技術）

版材は金属（主に銅）が用いられます。腐食凹版は、薬剤を使用して間接的に線を彫るという技術です。その彫刻線は鉛筆で描いたような柔らかい線となります。木版よりも微細な線が彫刻できるため、お札の原版彫刻にも用いられるようになりました。



太政官札の腐食凹版画線

近代的な技術　直刻凹版
（明治10 年以降のお札に用いられた技術）

版材は腐食凹版と同じく金属です。彫刻刀で直彫りする技法で、その彫刻線は鋭いのが特徴です。直刻凹版は腐食凹版より緻密な表現ができるため、お札の肖像彫刻に適した技術です。

凹版の印刷は凸版と異なり、彫刻された線の溝にインキを詰めてから強圧で紙に転写するため、インキが盛り上がって写るのが特徴ですが、その盛り上がりは直刻凹版に顕著です。そのため、手触り・風合いなどお札の偽造防止も兼ねています。

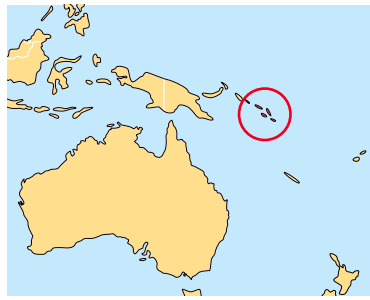
日本銀行兌換銀券の直刻凹版画線

世界のお札と切手をたずねて ②

このコーナーでは、世界各国が発行するさまざまなお札や切手を取り上げ、各国のお国柄や文化、歴史などの情報をご紹介します。

●ソロモン諸島
コプラの製造

100ドル紙幣（裏）　2015年



ソロモン諸島は、オーストラリアの北東、太平洋上に浮かぶ992の群島です。

16世紀、この地に到達したスペイン人航海者が、古代ヘブライ（イスラエル）の王ソロモンの財宝を探し求めていたことから、ソロモン諸島の名で呼ばれるようになりました。

国の主要産業は、ココヤシの実の脂肪層を乾燥させた「コプラ」で、ココナッツオイル、マーガリンや石けん、ろうそくなどの原料となります。お札や切手には、このコプラを製造する現地の人の様子が描かれています。特に最高額面のお札に取り上げられていることからも、コプラの重要度がうかがえます。

コプラの乾燥、ココナッツオイルの搾油作業を描く切手
「国際ココナッツデー」　2006年

●ガーナ
カカオと金鉱の国

国章に描かれたカカオの木と金鉱

1000セディ紙幣（表裏）
1996年 ※

アフリカのガーナは、日本の1000円札の肖像、野口英世が没した地であり、日本との縁も深い国です。

主要産業のカカオや金は、富の象徴として国章にも描かれるほどで、以前のお札には、宝石類やカカオ豆の収穫作業の様子などが大々的に取り上げられていました。

※現在は新しいデザインのお札に変わり、この額面のお札は使われていません。

（学芸員　土井侑理子）

カカオ加工工場での作業、完成したチョコレートを描く切手
「カカオ産業」　2007年

特別展 関連イベントのご案内

① 手すき体験

「すきげた」という道具を使って、光にかざすと絵や文字が現れる「すかし」の入ったはがきが作れます。

期　間 7月20日(金)～ 8月26日(日) ※月曜(休館日)を除く

体験時間 10:00 ～12:30、13:30 ～16:20

※体験所要時間は約10分
※混雑具合によって、受付を早めに締め切らせていただく場合があります。

② 来館記念撮影コーナー

楽しいお札の世界をイメージしたコーナーで、記念撮影ができます。
ご来館の記念に、ご家族やお友だちとぜひご利用ください。

ご利用案内

入館無料

開館時間：9:30-17:00
休　館　日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始、臨時休館日
※団体見学は、あらかじめお電話でご連絡ください。

独立行政法人 国立印刷局
お札と切手の博物館
〒114-0002　東京都北区王子1-6-1
TEL.03-5390-5194
http://www.npb.go.jp/ja/museum/
お札と切手の博物館　検索

交通

JR京浜東北線「王子駅」(中央口)下車　徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)下車　徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」下車　徒歩3分
＊駐車場はありません。

常設展

偽造防止技術の歴史―印刷技術・製紙技術
偽造防止技術体験コーナー
重要文化財 スタンホープ印刷機
お札の移り変わり/世界のお札/
切手の移り変わり/世界の切手/
国立印刷局の歴史/世界のめずらしいお札/
お札の芸術
＊特別展開催時は一部展示の変更があります。

発　行：お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)
発行日：平成30年7月1日
©2018
本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。
※この冊子は再生紙を使用しています。